

ダイワ・オーストラリア高配当株α(毎月分配型)

株式αコース／通貨αコース／株式&通貨ツインαコース

第68期分配金のお知らせ

2018年10月17日

平素は、「ダイワ・オーストラリア高配当株α(毎月分配型)」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは、2018年10月17日に第68期計算期末を迎え、「株式αコース」および「株式&通貨ツインαコース」につきましては、当期の収益分配金(1万口当たり、税引前。以下同じ。)をそれぞれ以下のとおりと致しましたことをご報告申し上げます。

「通貨αコース」の分配金につきましては、前回決算と同額と致しました。

今後ともファンド運用にあたっては、パフォーマンスの向上をめざしてまいりますので、引き続きお引き立て賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

《各コースの分配金(1万口当たり、税引前)》

	株式αコース	通貨αコース	株式&通貨ツインαコース
当期決算 分配金	60円	90円	45円
(前回決算 分配金)	(90円)	(90円)	(70円)
基準価額 2018年10月17日現在	4,914円	6,325円	3,290円

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

分配方針

「ダイワ・オーストラリア高配当株α(毎月分配型)」の収益分配方針は、以下のとおりとなっています。

- ① 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とします。
- ② 原則として、継続的な分配を行なうことを目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

※分配金は、決算の都度、収益分配方針に基づいて委託会社(大和投資信託)が決定しますので、将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、分配金の変更あるいは分配金が支払われない場合もあります。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

Q1 なぜ、「株式αコース」および「株式&通貨ツインαコース」の分配金が見直されたのですか？

A1 現在の基準価額の水準およびインカム性収益の状況などを総合的に勘案した結果、今後も継続した分配を行い、信託財産の着実な成長をめざすためには、分配金の見直しが必要との判断に至りました。

弊社の分配金の考え方は、ファンドの収益分配方針、インカム性収益の水準、基準価額の水準、市場環境等を総合的に勘案して分配金を決定するというものです。

「株式αコース」および「株式&通貨ツインαコース」の分配金を見直したのは、現在の基準価額の水準およびインカム性収益の状況などを総合的に勘案した結果によるものです。

足元のオーストラリア株式市場はおおむね堅調に推移していますが、豪ドルの対円為替レートが軟調に推移したことや分配金の支払いなどにより、各コースの基準価額も軟調な推移となりました。また、それに伴い、各コースで期待されるインカム性収益の額も減少しています。

「株式αコース」の場合、インカム性収益とは、①オーストラリア株式の配当金、②株式カバードコール戦略で得られるオプションプレミアムが該当します。

「株式&通貨ツインαコース」の場合、インカム性収益とは、①オーストラリア株式の配当金、②株式カバードコール戦略で得られるオプションプレミアム、③通貨カバードコール戦略で得られるオプションプレミアムが該当します。

足元の分配金と基準価額の水準などを考慮し、今後も継続的な分配を行い、基準価額の下落を抑え信託財産の成長をめざすためには、分配金の見直しが必要との判断に至りました。今回、分配金を見直したことによる差額はファンドの純資産に留保されることとなります。

《基準価額・純資産・分配の推移》

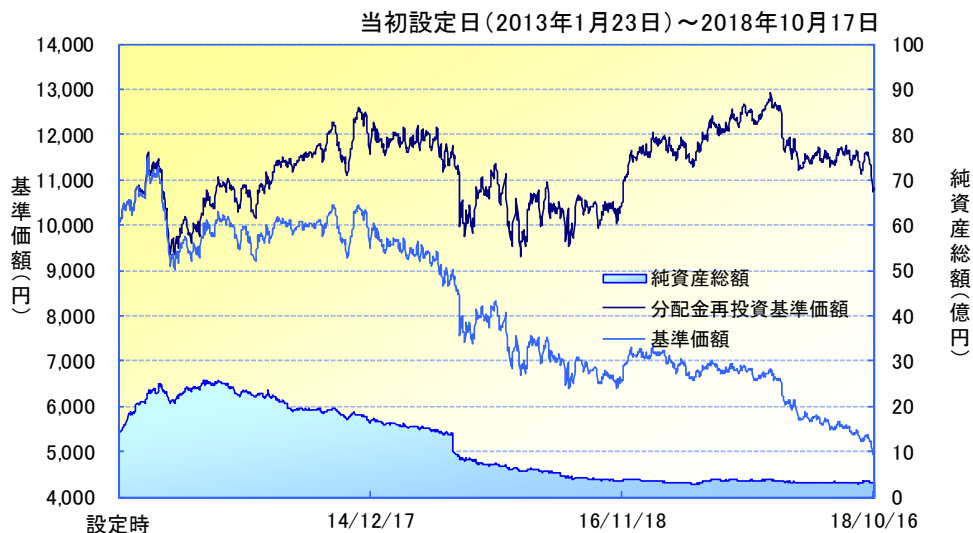
【株式αコース】

2018年10月17日現在

基準価額	4,914円
純資産総額	311百万円

《分配の推移》(1万口当たり、税引前)

決算期	(年/月/日)	分配金
第1～63期	合計:	5,670円
第64期	(18/6/18)	90円
第65期	(18/7/17)	90円
第66期	(18/8/17)	90円
第67期	(18/9/18)	90円
第68期	(18/10/17)	60円
分配金合計額	設定来:	6,090円
	直近5期:	420円



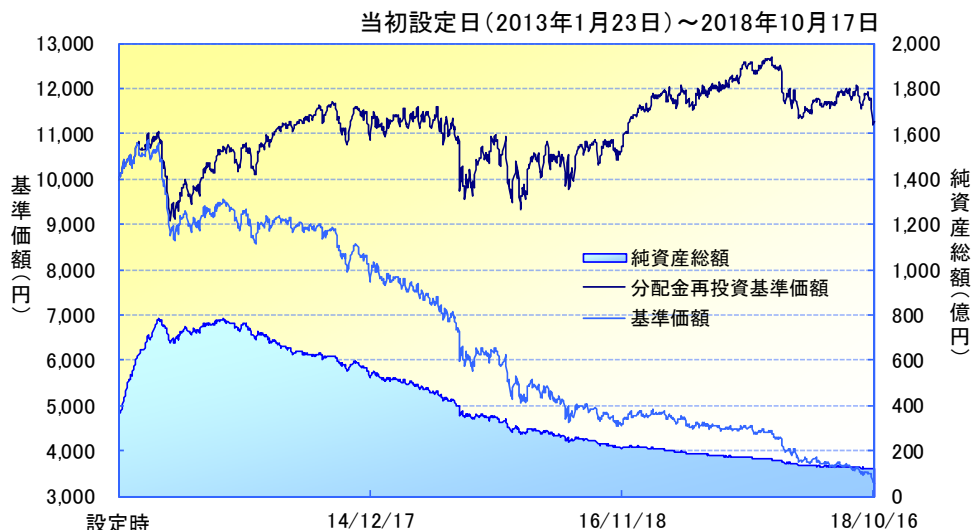
【株式&通貨ツインαコース】

2018年10月17日現在

基準価額	3,290円
純資産総額	118億円

《分配の推移》(1万口当たり、税引前)

決算期	(年/月/日)	分配金
第1～63期	合計:	7,390円
第64期	(18/6/18)	70円
第65期	(18/7/17)	70円
第66期	(18/8/17)	70円
第67期	(18/9/18)	70円
第68期	(18/10/17)	45円
分配金合計額	設定来:	7,715円
	直近5期:	325円



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。
 ※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

Q2 分配金はどのように決定したのですか？

A2 分配金は、収益分配方針に基づいて決定します。将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束することはできませんが、今後ある程度の期間にわたって分配を継続できるよう配慮しています。

当ファンドの収益分配方針において「原則として、継続的な分配を行なうことを目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。」と定めています。当該方針に基づいて分配金は、今後ある程度の期間にわたって分配を継続できるよう配慮して決定しています。

ただし、将来の分配金について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、現在の分配金の水準を維持できない、あるいは分配金が支払われない場合もあります。特にインカム性収益の低下、基準価額の下落などは分配金の見直し要因となります。

Q3 分配金を事前に知ることはできないのですか？

A3 決算日(毎月17日、休業日の場合は翌営業日)の夕方から夜にかけての公表までは、分配金をご確認いただくことはできません。

分配金は事前に決定しているものではなく、ファンドの決算日(毎月17日、休業日の場合は翌営業日)に、ファンドの収益分配方針、インカム性収益の水準、基準価額の水準、市場環境等を勘案して委託会社(大和投資信託)が決定します。したがって、事前にお知らせすることはできません。

なお、委託会社のホームページ(<http://www.daiwa-am.co.jp/>)では、夕方から夜にかけて基準価額とともに分配金を公表しますので、そちらをご参照ください。

Q4 分配金を引き下げということは、今後の運用に期待できないということですか？

A4 分配金の引き下げは、今後の運用実績とは関係するものではありません。

今回の「株式αコース」および「株式&通貨ツインαコース」の分配金引き下げについては、現在の基準価額の水準およびインカム性収益の状況などを総合的に勘案し、決定しました。したがって、今回の分配金の引き下げは、今後の運用実績とは関係するものではありません。なお、運用成績は、分配金に加え基準価額の動きも含めたトータルリターン(総収益率)で確認する必要があります。引き続きパフォーマンスの向上をめざしてまいります。

Q5 最近の投資環境と今後の見通しについて教えてください。**A5** オーストラリアの底堅い経済と堅調な世界景気動向は、今後も株式市場をサポートするものと考えます。また、豪ドルは、おおむね底堅く推移すると想定しています。

【投資環境】

株式市況

オーストラリア株式市場は2017年10月から2018年1月にかけて、企業業績への期待感や、原油や鉄鉱石などのコモディティ価格が堅調に推移したことなどを受けて、上昇基調となりました。その後、2月前半に、好調な米国雇用統計の発表を受けて、将来のインフレ加速への懸念が広がり、株式市場は大きく調整しました。2月後半から3月半ばにかけては、好調な決算を発表した大手医薬関連企業や消費関連企業などを中心に戻り基調となりました。3月後半から4月前半にかけて、米国トランプ政権の保護主義的な貿易政策への懸念が高まり、下落しました。4月後半から5月半ばにかけて、米中間での貿易政策の協議が進展するとの期待感などから投資家センチメントが改善したことや、コモディティ価格の上昇を受けてエネルギーセクターや素材セクターが上昇したことなどを受けて、堅調に推移しました。5月後半は、一転してコモディティ価格が下落したことを受けて、軟調に推移する局面もありましたが、6月以降は、米中間の貿易摩擦への懸念などから投資家のリスク回避姿勢が強まり、アジア各国の株式市場が下落する中、相対的に安定感のあるオーストラリア株式市場に注目が集まり、上昇傾向となりました。9月から10月前半にかけては、米中間での貿易摩擦をめぐる懸念や米国長期金利の上昇を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まり株式市場は下落しました。

為替市況

2017年10月後半から12月前半にかけて、予想よりも低い伸びだった消費者物価指数や、国会議員の二重国籍をめぐる政治の混乱などが嫌気され、豪ドルは対円で下落しました。低位にとどまるインフレや弱い賃金の伸びを背景に、RBA（オーストラリア準備銀行）の利上げ観測が後退したことも円高豪ドル安の要因となりました。12月後半から2018年1月にかけては、原油や鉄鉱石などのコモディティ価格が上昇したことや、堅調な世界経済を背景に投資家のリスク選好が強まったことなどから円安豪ドル高が進みました。2月から3月にかけて、オーストラリアの長期金利が米国のものを下回るなど、景気動向の違いに注目が集まったこと、また世界的なリスク回避の流れから円が選好されたことなどから、円高豪ドル安が進みました。4月前半から6月前半にかけて、好調な世界経済や堅調なコモディティ価格などを背景に、投資家のリスク回避姿勢が後退し、豪ドルは対円で上昇しました。6月後半から9月後半にかけて、トルコ・リラが急落するなど新興国を中心に投資家のリスク回避姿勢が強まり、豪ドルは対円で下落しました。

【今後の見通し】

株式市況

オーストラリア株式市場は、高い競争力を持ち、長期的な業績拡大が期待できる輸出関連銘柄を中心に堅調に推移すると想定しています。堅調な業績動向に加え、豪ドル安も輸出関連銘柄にはポジティブに働くと考えています。

為替市況

豪ドルに関しては、引き続き中央銀行の金融政策やコモディティ価格の影響を受けると考えています。RBAの金融政策ですが、個人消費や雇用環境などはおおむね堅調なものの、賃金上昇が緩やかなままであること、住宅市場に若干軟化の兆しがあることなどから、引き続き緩和的な政策金利が維持される見込みです。

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

以上

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

収益分配金に関する留意事項

- ◆ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

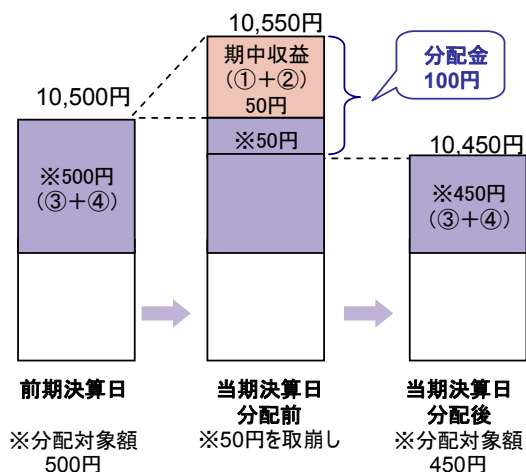
投資信託で分配金が支払われるイメージ



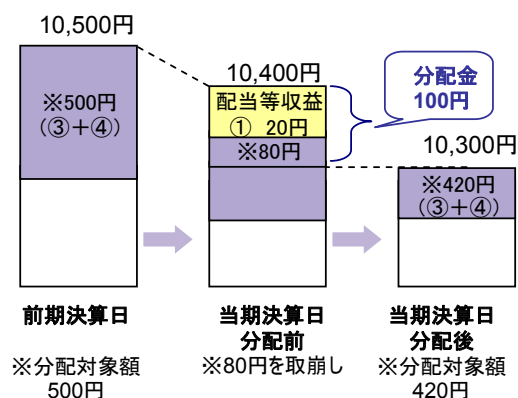
- ◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



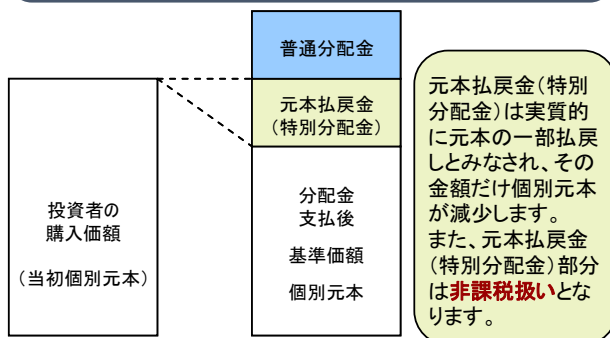
前期決算日から基準価額が下落した場合



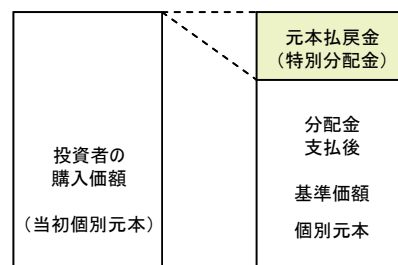
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

- ◆ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本（投資者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の（特別分配金）額だけ減少します。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

ダイワ・オーストラリア高配当株α(毎月分配型) 株式αコース／通貨αコース／株式&通貨ツインαコース

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- 予想配当利回りの高いオーストラリア株式へ投資するとともに、オプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、高水準のインカム性収益の確保と信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

1. 株式への投資とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。

- 相対的に予想配当利回りの高いオーストラリア株式に投資します。
- コール・オプションを売却することでカバードコール戦略を構築します。

2. カバードコール戦略の構築方法により3つのコースがあります。

株式αコース

- 株式のオプション取引を活用したカバードコール戦略を構築します。
- 権利行使価格を上回る株式の値上がり益を放棄する代わりに、株式のオプションプレミアムの確保をめざします。

通貨αコース

- 通貨のオプション取引を活用したカバードコール戦略を構築します。
- 権利行使価格を上回る為替差益を放棄する代わりに、通貨のオプションプレミアムの確保をめざします。

株式&通貨ツインαコース

- 株式および通貨のオプション取引を活用したカバードコール戦略を構築します。
- 権利行使価格を上回る株式の値上がり益および為替差益を放棄する代わりに、株式および通貨のオプションプレミアムの確保をめざします。

- ◆ 各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。

ダイワ・オーストラリア高配当株α(毎月分配型) 株式αコース : 株式αコース
ダイワ・オーストラリア高配当株α(毎月分配型) 通貨αコース : 通貨αコース
ダイワ・オーストラリア高配当株α(毎月分配型) 株式&通貨ツインαコース : 株式&通貨ツインαコース

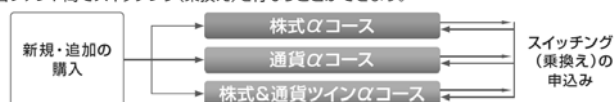
- ◆ 各ファンドの総称を「ダイワ・オーストラリア高配当株α(毎月分配型)」とします。

- オーストラリアの株式、株式カバードコール戦略、通貨カバードコール戦略の運用については、大和証券投資信託委託株式会社が助言を行ない、その助言に基づきクレディ・スイス・マネジメント(ケイマン)リミテッドが行ないます。

各コースについては、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。

スイッチング(乗換え)について

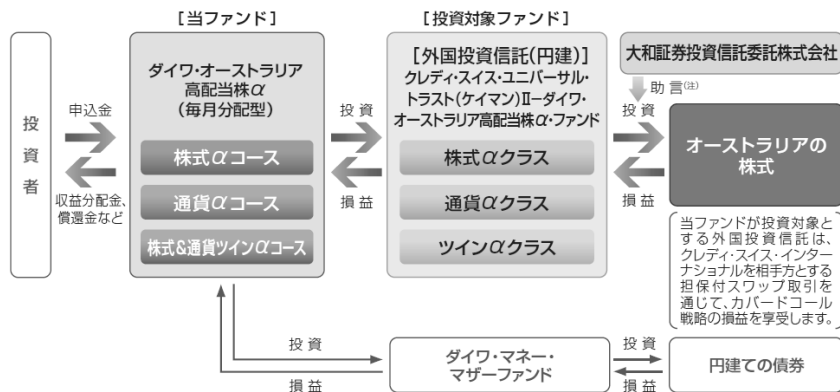
各ファンド間でスイッチング(乗換え)を行なうことができます。



3. 毎月17日(休業日の場合翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

4. 当ファンドは、複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。

- 外国投資信託の受益証券を通じて、オーストラリアの株式への投資とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。
- 当ファンドが投資対象とする外国投資信託では、直接株式への投資やオプション取引を行わず、担保付スワップ取引を通じて、オーストラリアの株式への投資とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の損益を享受します。



(注) オーストラリアの株式、株式カバードコール戦略、通貨カバードコール戦略の運用については、大和証券投資信託委託株式会社が助言を行ないます。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

ダイワ・オーストラリア高配当株α(毎月分配型) 株式αコース／通貨αコース／株式&通貨ツインαコース

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

投資リスク

●当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株式の価格変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「為替変動リスク」、「カバードコール戦略の利用に伴うリスク」、「カントリー・リスク」、「スワップ取引の利用に伴うリスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 〈上限〉3.24%（税抜3.0%） スイッチング（乗換え）による購入時の申込手数料については、販売会社にお問合わせください。	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	0.3%	換金に伴い必要となる費用等を賄うため、換金代金から控除され、信託財産に繰入れられる額。換金申込受付日の翌営業日の基準価額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用（信託報酬）	年率 1.3284% （税抜 1.23%）	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象とする投資信託証券	「株式αコース」「通貨αコース」 年率 0.57%程度 「株式&通貨ツインαコース」 年率 0.67%程度	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する運用管理費用	「株式αコース」「通貨αコース」 年率 1.8984%（税込）程度 「株式&通貨ツインαコース」 年率 1.9984%（税込）程度	
その他の費用・手数料	（注）	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

（注）「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

販売会社：

大和証券

Daiwa Securities

商号等 大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用：

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等 大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会